289-7イ
1200800285167

昭和十年

財團法人 理化學研究所案內

始

目次

一、目的及事業……1
　目的
　研究の發表
　工業的試驗
　機械製作
二、沿革……11
　設立の發端
　國庫補助法律
　設立
　御下賜金
　總裁
　所長
　三菱造船株式會社研究所寄附の件
三、組織……11
　資金
　會員役員及職員

研究室
事務室
四、寄附行爲、規則及規程……一六
寄附行爲
規則
發明規程
特許實施許諾内規
研究生規程
技術練習生規程
五、位置、建物及設備……一六
位置
建物及設備
六、昭和十年度研究項目……一五
七、昭和十年度豫算……三
八、前年度決算……三
九、特許權……六
附錄　役員名簿、構内建物配置圖……七

289-7/

財團法人

理化學研究所案内

一　目的及事業

〔目的〕　理化學研究所は産業の發達を圖る爲、純正科學たる物理學及化學の研究を爲し、又同時に其應用方面の研究をも爲すのである。工業と云はず農業と云はず、理化學に基礎を措かない總ての産業は、到底堅實なる發展を遂ぐることが出來ない、殊に人口の稠密な、工業原料其他物資の尠い我國に於ては、學問の力によつて産業の發達を圖り、國運の發展を期する外はない、當所の目的とするところは、此重大なる使命を果さんとするにある。

〔研究の發表〕　當所の研究成績は歐文學術報告 Scientific Papers of the Institute of Physical and Chemical Research 及び Supplement 竝に理化學研究所彙報及び同 Abstracts を發行して内外に發表する。歐文報告は第一卷より第二十六卷まで五百六十五號、彙報は第一輯より第十四輯まで百三十一號を刊行して廣く一般に販賣してゐる。又場合によりては内外專門雜誌等にも掲載する。その外研究成績報告講演會によつても發表する、此講演會は既に二十七回を開催した。

〔工業的試驗〕　理化學の應用方面の研究が研究室内で完成した場合は試驗的作業を行ひ、工業として成立の目的及事業

見込みあるや否やを確めるのである。此試驗で相當の成績を擧げた後は其性質により或は所内に製造設備を爲して作業し、或は他に其製造を託し、又は當所との報償契約の下に新會社が設立されるのである。目下工業として成立し、又は成立せんとして居るものは、可なり多い。この應用研究の成功する第一の素因は、背後に堅實なる純正科學の研究がある爲めであるから、幸に此等工業で收益を得寄附を受けた場合は、其一部は純學術方面の研究費に振り當て、一部は發明者への報酬とするのである。

〔機械製作〕 理化學の研究に用ゆる精密機械類は一般の機械類と其趣を異にし、一般工場では製作することの出來ないものが多い。當所は比較的大規模の機械製作工場を設け、所内にて用ゆる機械の製作及修繕を爲す外、他の註文に應じて研究用の特殊の機械器具類を製作して居る。目下製作して居るものは、別冊に記載せる如く未だ種類は少いが、從來海外より輸入して居た精密機械、測定機械を製作し得るのみならず、外國品よりも優秀の製作品がある。

沿革

〔設立の發端〕 大正二年六月、工學博士藥學博士高峰讓吉氏が米國から歸朝の際、帝國の現狀に鑑みて、國民科學研究所設立の必要ある事を高唱した。此計畫は約二千萬圓の資金を以て研究所を設立せんとするものであつたが、三十名の實業家及學者より成る調査委員會は、當時の我國財界の事情に徵し、先づ五百萬圓位の資金を以て、差當り最も急務とする化學研究所を設立せん事を企劃し、翌大正三年三月、調査委員七名連署して貴衆兩院へ化學研究所設立に就いての請願書を提出したが、不幸議會の解散に會つて其目的を達する事が出來なかつた。

大正三年八月、歐洲大戰勃發し其餘波を受けて外國との交通は一部杜絶し、醫藥品及工業原料の輸入は梗塞或は制限せられ、我國の衛生上及產業上多大の障害を來したので、農商務省は化學工業の振興策を講ずる爲調査會を設置し、同年十一月第一回調査會を開きたるに、我國に於ける化學工業の改良發達を圖るには、化學研究所設立を以て第一の急務とし農商務大臣に建議書を提出した。

大正四年三月、第二回の化學工業調査會に於いて、偶委員中に化學のみの研究では其範圍が狹過ぎるゆへ、物理學及化學の兩方面に亙る理化學研究所を設立しては如何との議起り、此議に對し各委員多數贊同し、長井長義、渡邊渡、高松豐吉、櫻井錠二、古在由直の五博士を特別委員に擧げて、實行方法を一任する事になつた。仍つて右特別委員等は、直ちに商工局長及大學教授等と相會し、更に數回の協議を重ね設立計畫の大要、研究事項等を協定し、曩に有志の計畫せる化學研究所設立案との連絡統一を得、澁澤、菊地、山川の三男爵及中野武營氏並に前記特別委員主唱者となり、大正四年四月、設立に關する草案を主なる實業家及當路者に送付して其贊同を求め、玆に理化學研究所設立の曙光を見るに至つたのである。其當時起草された設立趣旨は次の通りである。

理化學研究所設立ノ趣旨

明治維新以降帝國ノ文明ハ長足ノ進歩ヲ爲シタリト雖、其ノ由テ來ル所ヲ察スルニ主トシテ歐米先進諸國

ノ模倣ニ勉メタルノ結果ニ外ナラズ。而シテ理化學及之ヲ應用シタル各般ノ技術ニ於テ殊ニ其ノ然ルヲ見ル。想フニ理化學ニ對スル我邦人固有ノ發明トシテハ世界ニ誇稱スベキモノ甚ダ鮮ク、學者ハ今尚歐米諸國ニ於ケル研究ノ成果ヲ追從スルニ是レ急ニシテ、自ラ進ムデ是等學理ノ獨創的研究ヲ爲サムトスルモ、其ノ設備ト經費トニ缺ク所アリテ未ダ十分ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザルノ實狀ニ在ルハ、遺憾ノ極ト言ハザルベカラズ。吾人ハ固ヨリ永ク此ノ如キ狀態ニ安ムズベキニアラズ。速ニ相當ノ研究所ヲ設立シ此種ノ研究ヲ盛ナラシメ、以テ百般工業ノ根本ヲ啓沃シテ其ノ健全ナル發達ヲ促進スルト共ニ、我國ノ自ラ研究シ自ラ發明シタル所ヲ以テ、久シク外國ニ負ヒ來リシ智能上ノ債務ヲ償却シ、進ムデ世界ノ文運ニ貢獻スルコトヲ期セザルベカラズ。試ニ歐米諸國ニ就テ此種ノ實例ヲ求メムカ、英國ニハ國立理學研究所アリ、佛國ニハ工藝試驗所アリ、北米合衆國ニハ國立標準局アリ、獨逸國ニハ國立理學研究所及ウイルヘルム帝化學研究所アリ、普國ニハ國立材料試驗所アリ、概ネ官公立ノ性質ヲ有ス。其ノ他富豪又ハ篤志者ノ建設セル私設ノ營造物ニ至テハ擧ゲテ數フベカラズ。加フルニ各種ノ大工場亦各其ノ試驗所又ハ研究所ヲ附設スルアリ。理化學ノ學理ト之ガ應用ニ關シテハ官民戮協シテ之ガ研究ヲ相競ハザルナシ。歐米列國ニ於ケル文運進暢ノ勢、汪然トシテ當ルベカラザルモノアルハ、其ノ由來スル所決シテ偶然ニアラズト謂フベシ。

今ヤ帝國ハ三大戰役ヲ經テ國威益々揚リ、國際上ノ位置愈々隆キヲ加ヘタリト雖、此勢力ヲ維持シテ倍々之ヲ皇張セムトスルニハ國費ヲ要スルコト彌々多カラザルヲ得ズ。然ルニ我國ハ面積甚大ナラズ、農業鑛業其

ノ他原始產業上ノ富源亦豐カナラザルヲ以テ、產業上ノ國是トシテハ一ニ智能上ノ生產ヲ潤澤ナラシメ、以テ是等ノ闕如スル所ヲ補フノ外アルベカラズス。研究愈々深クシテ之カ應用益々廣キヲ得バ、源泉分流共ニ滾々トシテ盡クルコトナク、此種生產ノ增加亦隨テ旺盛ナルヲ致サム故ニ、理化學ノ研究ト之ガ應用トヲ遺憾ナカラシメムガ爲、玆ニ理化學研究所ヲ設置スルハ寔ニ刻下時勢ノ切要ニ應ズルモノナリ。

殊ニ今次歐洲ノ戰亂アリテ以來列國トノ通商交通一時ニ杜絕セラレ、若ハ甚シク制限セラレ交戰國ハ數多ノ重要品ノ輸出ヲ禁止シタル爲、我邦藥業者及工業者ハ何レモ其ノ必要トスル藥品又ハ原料ノ中之ヲ得ル能ハザルモノヲ生ジ、當時政府ハ是等ニ對シ種々劃策スル所アリシガ時局ハ實ニ夥多重要ナル教訓ヲ我邦人ニ與ヘタリ。隨テ今後醫術上ニ於テハ藥劑ノ獨立ヲ完ウスルノ必要アルコト、又工業上ニ於テハ其ノ基礎タルベキ一定ノ物質ハ之ガ自給ノ途ヲ確立セザルベカラザルコト、殊ニ國防上ニ於テ軍事材料ノ獨立ヲ確保スベキコトヲ一般ニ覺知セシメタリ。就中最モ重要ノ教訓トスベキハ智能上ニ於テ、我邦復タ從來ノ如ク常ニ歐米列國ニ倚賴スベカラザルコトヲ深ク感悟セシメタルコト卽チ是ナリ。

要之理化學ノ獨創的研究ヲ旺盛ナラシメ、以テ工業其他一般產業ノ發達ヲ期スルト共ニ我邦人ノ發明能力ヲ發揮シテ、智能上ノ生產力ヲ充實スルハ、我邦目下ノ急務ナルノミナラズ、永遠ニ富强ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所以ニシテ、理化學研究所ノ設置ハ此目的ヲ達セムトスルニ外ナラズ。吾人這般之ガ設立ヲ企圖スル

ヤ、政府ハ理化學研究所國庫補助法ヲ發布シテ十年間ニ二百萬圓ノ補助金ヲ交付セラレムトシ、畏クモ、皇室ニ於テモ亦御下賜金ノ御內儀アルヲ拜聞セリ。希クバ江湖ノ諸士吾等ノ意ノ在ル所ヲ諒トセラレ、奮テ此擧ニ贊同シ、十分ノ助力ヲ與ヘラレムコトヲ。

大正四年四月

斯くて理化學研究所の設立を促進せんが爲めに、大正四年六月時の總理大臣大隈伯爵は內務、大藏、文部及農商務各省の關係當局、學者及實業家を私邸に招致して設立協議會を開き、超えて大正五年一月、澁澤男爵外十一名連署して內閣總理大臣、大藏大臣及農商務大臣へ、設立計畫に對し政府の補助を仰がん事を建議した。

理化學研究所設立ニ關スル建議

世界ノ文運ニ貢獻シ以テ益々國威ヲ宣揚スルト共ニ、百般工業ノ根本ヲ啓沃シ、以テ國富ノ增進ヲ期センニハ、理化學ニ關スル獨創的研究ヲ旺盛ナラシメザルベカラズ。而カモ今次ノ歐洲戰亂ハ今後益々軍事材料ノ獨立、工業物資ノ自給ヲ企畫スルノ緊要ナルコトヲ敎ヘ、吾人ヲシテ理化學研究ノ必要ヲ愈々痛切ニ覺知セシメタリ。然ルニ我國ニ在リテハ、從來此種ノ研究機關ニ於テ鬪クル所アルヲ以テ、民間有志ニ於テ理化學研究所設立ノ計畫アリ。然ルニ此事業タルヤ、少ナカラザル資金ヲ要シ、民間有志ノ醵金ノミヲ以テハ到底所期ノ目的ヲ達スル事能ハザルガ故ニ、政府ハ國家事業トシテ之ヲ助成シ、理化學ノ研究ヲシテ遺憾ナカラシメ、以テ國運ノ發展ヲ期スル爲メ、速カニ適當ノ措置ヲ採ラム事ヲ切望ス。

右別紙豫算概算書相添ヘ、謹テ及建議候也（豫算概算書省略）

大正五年一月二十一日

〔國庫補助に關する法律〕　政府に於ても夙てより設備の完全なる研究機關設置の必要を認めて居たので、前記大正五年一月の建議に基き、第三十七帝國議會に理化學を研究する公益法人に對し國庫補助を爲す法律案と、大正五年度に於て補助すべき金二十五萬圓の追加豫算とを提出せるに、兩院の協贊を得、大正五年三月六日同法律案が公布せられた。

法律第十六號

第一條　產業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ目的トスル公益法人ノ一ニ對シ政府ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ限リ每年二十五萬圓以內ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ノ總額ハ二百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　前條法人ノ業務ハ農商務大臣ノ監督ニ屬ス

農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ指揮監督シ之カ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

附則　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

此補助金に就ては大正五年度より同十一年度迄に百六十五萬圓の交附を受けたが、其後當所の研究を更に一層盛大にする爲め再び第四十六帝國議會で補助金に關する改正法律案が通過し、大正十二年度より向十ケ年間毎年二十五萬圓宛經常費の補助を受くる事になつた。此法律案は大正十二年四月二日、左記の通り公布せられた。

法律第四十號

大正五年法律第十六號中左ノ通改正ス

第一條中「十年」ヲ「十七年」ニ「二百萬圓」ヲ「四百十五萬圓」ニ改ム

附則　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔設立〕　基礎準備略々成り、第一回と設立發起協議會を開き、澁澤男爵を創立委員長に櫻井、高松、團の三博士、和田豐治、大橋新太郎、中野武營、莊清次郎の四氏を常務委員に推擧し建築及設備に就ては物理學部を長岡半太郎、大河内正敏兩博士に、又化學部を池田菊苗、井上仁吉兩博士に囑託した。そこで委員長及常務委員は設立の趣意書、計畫書及研究所の行はんとする事業と産業上との關係を明かにした「理化學研究所の事業と産業界」を刊行して各方面に配布し、傍ら實業家を歷訪して寄附金の勸誘に努められたところ、富豪及篤志家より多數の寄附金が集つて、大正六年三月十九日迄に其申込總額二百十八萬七千圓に達した。澁澤男爵は設立者の總代となつて東京府知事を經て農商務大臣に財團法人理化學研究所設立の許可を申請した。農商務大臣よりは直ちに指令第三六九二號を以て許可された。實に大正六年三月二十日である。

〔御下賜金〕　當所設立の事天聽に達し、大正六年四月二十六日左記寫の通り金百萬圓御下賜の恩命に浴した。當所は大御心に副ひ奉らんが爲め、恩賜金は基金として永遠に保存する事に決議せられた。

財團法人理化學研究所

一金百萬圓　今般其ノ所設立ノ趣被聞食學術及産業御奬勵ノ思召ヲ以テ御補助トシテ大正六年以降十ケ年間金十萬圓宛卽前記ノ通下賜候條

聖旨ヲ奉體シ眞摯勉勵努力以テ其ノ目的ヲ遂成セムコトヲ期スヘシ

大正六年四月二十六日

宮內省

〔總裁〕　當所の總裁には、皇族を奉戴することに寄附行爲で定められてゐる。仍て設立者一同の希望により伏見宮貞愛親王殿下を總裁として奉戴の議を其筋に願ひ出たるに、大正六年三月二十八日御承諾被爲在たる旨の電牒があつた。總裁奉戴式は大正八年十一月二十六日、帝國ホテルに殿下の台臨を仰ぎ、關係者一同參列して擧行した。其際左の令旨を賜つた。

令旨　理化學ハ文化ノ淵源富强ノ根本ニシテ之カ研究ヲ務ムルハ卽チ國家發展ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所以ナリ貞愛此ノ趣旨ヲ以テ設立セラレタル本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣ヒトスル所ニシテ職員及有志ノ擁贊ニ依リ本所ノ事業ヲ遂行シ邦家ノ爲貢獻スル所アラムコトヲ庶幾フ職員及協同ノ諸員斯ノ意ヲ體シ益々

努ムル所アレ

大正八年十一月二十六日

總裁宮殿下には其後大正十一年十月二日當所に成らせられ、大河内所長より設立以來の經過、建築、設備並に研究の概況等を聞召され、次で各館を隈なく御檢閲あらせられ、且つ研究室主任より研究の現況並に其成績等に就て、御熱心に說明を聞召された後、研究員一同を御前に召され左の令旨を賜つた。

令旨　惟フニ理化ノ學ハ國防及產業ノ基礎ニシテ世界各國銳意之ガ研究ニ從事セサルハナシ今ヤ本所ノ建築設備モ略ホ竣リ創業以來日猶淺キニ係ラス其成績ノ見ルヘキモノアルハ予ノ深ク欣悅トスル所ナリ諸子益々奮勵努力シテ國家ノ富强ニ資セヨ

大正十一年十月二日

大勳位功二級　貞愛親王

財團法人理化學研究所總裁大勳位功二級　貞愛親王

其後伏見宮貞愛親王殿下には大正十二年二月四日薨去あらせられ、新に伏見宮博恭王殿下を總裁として奉戴の儀が允許あらせられたので、大正十二年十一日二十日、殿下の台臨を當所に仰ぎ奉戴式を擧行し、博恭王殿下より左の令旨を賜つた。

令旨　惟フニ理化學ノ研究ハ文化ノ開發ヲ促シ富强ヲ增進スル所以ニシテ國運發展ノ基礎實ニ此ニ存ス今予先考ノ後ヲ受ケテ新ニ本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣幸トスル所ナリ冀クハ職員及協賛諸員ノ補翼ニ依リ益々本所ノ事業ヲ擴充シテ紹述ノ實績ヲ擧ケンコトヲ諸子ヨク斯ノ意ヲ體シテ國家ニ貢獻スル所アレ

大正十二年十一月二十日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功四級　博恭王

〔所長〕　大正六年設立當時の所長は、理學博士男爵菊池大麓氏であつたが、就任後間もなく急病にて卒去された。男爵は設立匆々非常に多忙の際、熱心其職に盡された為、劇務の爲健康を害せられ大正十年九月辭任された爲、爾來工學博士子爵大河内正敏氏が就任し今日に及んで居る。

〔三菱造船株式會社研究所寄附の件〕　昭和八年三月三十一日三菱造船株式會社より東京市本鄉區駒込上富士前町百五十七番地所在同社研究所々屬建物機械設備其の他一切を、男爵岩崎久彌氏より同敷地を當所に寄附の申込があつた。四月一日附を以て受諾之が引繼を了し、第二十三號館と稱することにした。

三　組　織

〔資金〕　當所は下賜金、政府補助金及法人竝に個人の寄附金より成る財團法人で、商工省の管轄に屬して居る、昭和十年三月末日現在資金總額は金六百參拾六萬八千四百七圓七拾九錢で、今まで敷地、建物及設備に投ぜられた額は金六百五拾貳萬六千六百八圓五拾九錢である。

〔會員役員及職員〕　昭和十年三月末日現在、法人組織による會員は百八十八名で、役員は總裁、顧問各一名、理事十五名、監事四名、評議員六十一名である。（附錄役員名簿參照）

職員は七百四十六名で、夫れを大別すると

研究に直接從事する者　計四百二十二名

内譯　主任研究員　二十七名
　　研究員　二十五名
　　助手　七十八名
　　囑託　八十八名
　　研究生　百十九名
　　雇以下　八十五名

研究の介助を爲す者　技師以下百二十名

工作實習中の者　見習三十二名

試驗作業に從事する者　研究員一名、技師以下百三十名

事務に從事する者　主事一名及書記以下十一名

雜役に從事する者　雇以下二十九名

〔研究室〕　研究室は夫々主任研究員の姓名を冠し、現在飯盛、磯部、石川、石田、井口、飯高、西、西川、仁科、本多、大河内、和田、片山、高嶺　長岡、野口、久保田、眞島(利)、眞島(正)、深川、寺田、喜多、木村木下、瀬藤、鈴木(庸)、鈴木(梅)、の二十七室ある。尤も此等研究室全部が當所内にあるのではなく、便宜上主任研究員の所在地に置いてある。卽ち石川、本多の兩研究室は東北帝國大學總長の許可の下に同大學内に、又片山研究室は同樣東京帝國大學内に、喜多、木村兩研究室は京都帝國大學内に又眞島(利)研究室の一部は大阪帝國大學及び東北帝國大學内に在る。

而して各研究室は夫々室專有の豫算を持ち、經費の使途は主任研究員に一任されて居て、室の設備に多くを支出するも、又人件費に多くを使用するも夫れは全く自由である。猶研究室には左の六係が配屬して居る。

1　倉　庫　係

一、研究用貯藏物品の配給に關する事項
二、研究室用物品臺帳及出納帳簿の記入、整理に關する事項
三、研究室の取締並に營繕に關する事項

此倉庫係は研究室で日常に使用する消耗品、各種藥品、其他最も多く使ふ雜貨をも貯藏し、各研究室及所内各部へ一定の價格で供給し、割當てられた豫算から差引いてゐる。

2　圖　書　係

一、圖書の保管、整理に關する事項
二、圖書の購入に關する事項
三、圖書閱覽に關する事項
四、製本に關する事項

3　研究成績發表係（通稱、編纂係）

一、研究成績報告文書刊行並に同發賣頒布及講演に關する事項

當所研究員の中から選擧せられた研究成績發表委員は歐文報告及邦文彙報其他一切の原稿の整理、出版手續及內外國各方面への出版物の寄贈或は交換に就いて協議を開く等、當所から刊行する出版物一切の仕事をする事になつて居る。

4　工　作　係

一、機械器具の製作、竝に修繕に關する事項
二、機械器具及材料の購入、竝に保管に關する事項

工作係は設計製圖、機械、第一仕上、第二仕上、調整、測機、鑄工、鍛工、レンズ、硝子、塗工、木工の諸部から成つて居て、技師以下百七名居る。研究室から註文の諸機械器具の製作、竝に修理等は勿論研究室外よりの註文に對しても出來るだけ應じて居る。

5　電　氣　係

一、動力、電燈、電話其他電氣機に關する事項

6　機　械　係

一、汽機、汽罐、液體空氣、壓搾瓦斯其他に關する事項

〔事務室〕　一般事務は左の三係で分掌して居る。

1　庶　務　係

一、所印及職印の保管
二、役員、會員及職員の進退に關する事項
三、役員會議に關する事項
四、機密に關する事項
五、建設工事に關する事項
六、土地建物及樹木の管理に關する事項
七、事務室用物品の購入保管に關する事項
八、構内取締に關する事項
九、電話交換に關する事項
一〇、製作品の販賣に關する事項
二、前項の外他係に屬せざる事項

2　會　計　係

一、豫算決算に關する事項
二、御下賜金、政府補助金及一般寄附金に關する事項
三、現金、有價證券の出納保管に關する事項

四、現金、有價證券出納諸帳簿及證據書類の整理に關する事項
五、取引銀行に關する事項
3 炊 事 係
一、所員の賄に關する事項
二、庖厨器具類の購入並に保管に關する事項
三、食料品の購買、出納並に帳簿整理に關する事項

四 寄附行爲、規則及規程

〔寄附行爲〕

第一章 目的及事業

第一條 本所ハ産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其ノ成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ以テ目的トス

第二條 本所ハ前條ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スノ外左ノ事業ヲ行フ

一、一定ノ事項ヲ指定シテ研究ヲ依頼シ又ハ本所ノ設備ノ利用ヲ希望スル者アルトキハ其ノ需ニ應スルコト

二、研究及發明ヲ奬勵スヘキ施設ヲ爲スコト

三、研究及調査ノ成績ヲ公ニスル爲印刷物ヲ刊行シ又ハ講話ヲ爲スコト

第二章 名稱及事務所

第三條 本所ハ財團法人理化學研究所ト稱ス

第四條 本所ハ事務所ヲ東京市本郷區駒込上富士前町三十一番地ニ置ク

第三章 會員及資産

第五條 本所ノ事業ヲ翼賛シテ金錢又ハ物件ヲ寄附シタル者ヲ會員ト稱ス

第六條 本所設立ノ日ニ於ケル資産ハ左ノ如シ

一、現金拾萬五千圓也

二、設立初年目ニ於ケル寄附年賦金五拾萬五千七百圓也

三、設立二年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬五千七百圓也

四、設立三年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬四千六百圓也

五、設立四年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也

六、設立五年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也

第七條 本所ノ資産ハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ其ノ一部ヲ基金ニ充ツ

基金ハ他ノ資産ト區別シテ之ヲ管理保存スルモノトス但シ評議員會ノ議決ヲ經總裁ニ上申シ之ヲ處分スルコト

ヲ得

第八條　本所ノ資産ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預入レ利殖ヲ圖ルモノトス

第九條　本所ノ經費ハ基金ノ利息及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十條　本所ノ豫算ハ毎年度評議員會ノ議決ヲ經テ決算ハ評議員會ノ認定ヲ經テ總裁ニ上申スルモノトス

第十一條　本所ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章　總裁、副總裁及顧問

第十二條　本所ニ總裁一人及副總裁二人ヲ置ク

總裁ニハ皇族ヲ奉戴ス

副總裁ハ總裁之ヲ委囑ス

副總裁ハ總裁ヲ補翼ス

第十三條　總裁ノ諮詢ニ應スル爲顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總裁之ヲ委囑ス

第五章　役　員

第十四條　本所ニ理事二十人以内監事十人以内ヲ置ク

理事及監事ハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

前項ニ依リ選任セラレタル理事ノ就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第十五條　本所ニ所長一人ヲ置ク

所長ハ理事中ヨリ總裁之ヲ委囑ス

所長ハ本所ヲ代表ス

所長ハ理事過半數ノ同意ニ依リ委任ヲ受ケタル事務ニ付之ヲ專行ス

所長故障アルトキハ總裁ノ指名シタル理事代テ其ノ職務ヲ行フ

第十六條　理事及監事ノ任期ハ三年トス但シ再任スルコトヲ妨ケス

補缺役員ノ任期ハ前任ノ者ノ殘任期間トス

第十七條　本所ニ評議員百五十人以内ヲ置ク

設立當初ノ評議員ハ設立者ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

評議員ノ補充ヲ要スルトキハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

第六章　補　則

第十八條　本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條　將來本寄附行爲ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ主務官廳ノ認可ヲ

寄附行爲、規則及規程

受クルコトヲ要ス

前項評議員會ノ議決ハ事務所ヲ變更スル場合ヲ除クノ外評議員總數三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

〔財團法人理化學研究所規則〕

第一章　評　議　員　會

第一條　定時評議員會ハ毎年一月及六月所長之ヲ招集ス但シ所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ招集スルコトヲ得

評議員五分ノ一以上又ハ監事ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ所長ハ臨時評議員會ヲ開クコトヲ要ス

第二條　評議員會ノ議長ハ評議員會ニ於テ毎回評議員中ヨリ之ヲ互選スルモノトス

第三條　評議員會ニ於テ選擧ヲ行フトキハ其ノ議決ヲ以テ指名選擧法ニ依ルコトヲ得

第四條　評議員會ハ評議員總數ノ五分ノ一以上出席スルニ非レハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

但シ同一事項ニ付再度招集スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

評議員會ニ出席セサル評議員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ評議員ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得

第五條　評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六條　評議員會ニ於ケル議事ノ經過ハ議事要錄ニ登錄シ議長及出席評議員二名以上之ニ署名スルモノトス

第二章　理　事　會

第七條　本所ノ事務ハ理事過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ行フ但シ理事過半數ノ同意ヲ以テ其ノ事務ノ一部ヲ所長ニ委任スルコトヲ得

第八條　所長ハ本所ノ事務ニ付協議ヲ爲ス必要ノ都度理事會ヲ招集スルコトヲ得

第九條　理事會ニ於テ出席者過半數ニ達セサルトキハ所長ハ書面ヲ以テ缺席者ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第十條　理事會ノ議長ハ所長ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條　第六條ノ規定ハ理事會ニ之ヲ準用ス

第三章　職　員

第十二條　本所ニ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員	若干人	助手　若干人
技師	若干人	技手　若干人
主事	一人	書記　若干人
雇	若干人	

第十三條　所長ハ所務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十四條　研究員ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ總裁之ヲ奏嘱ス

寄附行爲、規則及規程

技師及主事ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ任免ス

助手、技手、書記及雇ハ所長之ヲ任免ス

第十五條　所長ハ業務ノ都合ニ依リ囑託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

第四章　雜　則

第十六條　副總裁、顧問及監事ハ理事會及評議員會ニ列席シ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

第十七條　評議員會ニ報告スル決算書ニハ監事ノ意見ヲ添フヘシ

第十八條　所員ノ給與ニ關スル規定其ノ他本所ノ業務執行ニ必要ナル規定ハ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ定メ評議員會ニ報告ス

第十九條　將來本規則ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申スルコトヲ要ス

〔**財團法人理化學研究所職員ノ爲シタル發明實用新案及意匠ニ關スル規程**〕

第一條　本規程ニ於テ職員ト稱スルハ財團法人理化學研究所規則第十二條及第十五條ニ規定スル職員ヲ謂フ

第二條　職員カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所之レヲ承繼ス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

第三條　前條ノ發明ニ關スル特許權ハ發明者ノ希望ニ因リ本所ノ承諾アリタルトキハ本所ト發明者トノ共有ト爲スコトヲ得

第四條　前條ノ規定ニ依リ特許權カ本所ト發明者トノ共有ニ係ル場合ニ於テハ特許料ハ本所ノ負擔トス但シ發明者カ本所ノ同意ヲ得テ持分ヲ讓渡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　本所カ第二條ノ規定ニ依リ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ發明者ニ支拂フヘキ補償金ハ特許發明ノ實施ニ因ル利益金、特許發明ノ實施ノ許諾ニ對シテ支拂ヲ受ケタル報酬金、法律ノ規定ニ依リ實施權ヲ有スル者ヨリ支拂ヲ受ケタル補償金、特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ノ讓渡ニ因リ對價トシテ支拂ヲ受ケタル金額及特許權ノ制限、收用又ハ取消ニ因リ政府ヨリ補償金トシテ支拂ヲ受ケタル金額ノ百分ノ五十トス但シ發明ニ關スル事情其ノ他ヲ斟酌シ百分ノ二十五ノ範圍內ニ於テ本所ノ認定ニ依リ之レヲ增減スルコトヲ得

數人ノ職員カ共同シテ發明ヲ爲シタルトキハ各發明者ニ支拂フヘキ補償金ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ各發明者ノ受クヘキ補償金額ハ本所ノ定ムル處ニ依ル

第三條ノ規定ニ依リ本所ト發明者ト特許權ヲ共有スル場合ニ於テハ發明者ノ持分ヲ以テ前項ノ補償金ト看做ス

特許權取得後五年ヲ經過スルモ第一項ノ補償金ヲ支拂フコト能ハサルトキハ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第六條　國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之レヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトス

第七條　職員カ本所ニ於テ職務上特許法第三條第二號乃至第三號ノ事項ニ付特許ヲ受クルコトヲ得サル發明ヲ

爲シタルトキハ本所ハ物ノ發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

前項ノ場合ニ於テ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第八條　第二條ノ規定ニ依リ本所カ職員ノ爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ本所カ其發明ニ付特許ノ出願ヲ爲ササルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條　第二條ノ場合ニ於テケル本所ノ特許出願前又ハ前二條ノ場合ニ於テケル發明ノ內容ヲ知ラシメタルトキハ本所ニ對シテ之レニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ賠償スヘキモノトス

第十條　本規程ハ實用新案若ハ意匠ノ登錄ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權若ハ意匠權ニ付之レヲ準用ス

（參照）

規則第十二條　本所ハ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員、助手、技師、技手、主事、書記、雇

規則第十五條　所長ハ業務ノ都合ニ依リ囑託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

〔財團法人理化學研究所ト研究依賴者又ハ研究生依託者トノ間ニ於ケル特許發明實用新案ノ實施許諾ニ關スル契約規準內規〕

一、本所ノ會員ハ本所ノ目的ニ屬スル一定ノ事項ニ付費用ヲ負擔シテ其ノ研究ヲ依賴スルコトヲ得

二、本所カ前項ノ依賴ニ應シ研究ヲ爲ス場合ニ於テ之レニ從事スル本所ノ職員カ發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

三、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタルトキハ本所ハ研究依賴者ニ之レヲ通知スルモノトス

四、研究依賴者カ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ前項ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタルトキハ本所ハ實施期間實施區域實施方法報酬額其ノ他ノ實施ノ條件ヲ協議シ、協議調ヒタルトキハ優先シテ之レニ實施ヲ許諾シ他人ニ其ノ實施ヲ許諾セサルモノトス

五、前項ノ規定ニ依リ研究依賴者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾シタルトキハ其ノ限度ニ於テ本所ハ自ラ特許發明ノ實施ヲ爲ササルモノトス

六、第四項ノ規定ニ依リ本所カ研究依賴者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究依賴者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ特許發明ノ實施ニ依リ得タル利益金ノ百分ノ三十以上ニ相當スル金額トス

七、削　除

八、第六項ノ報酬金額ハ實施權者ニ營業年度ノ定メアル場合ニ於テハ營業年度ニ依リテ計算シ營業年度ノ末日ヨリ三十日內ニ營業年度ノ定メナキトキハ曆年ニ依リテ之レヲ計算シ翌年一月三十一日迄ニ本所ニ支拂フヘキモノトス

九、第四項ノ規定ニ依リ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ受ケタル者カ許諾ノ日ヨリ一年內ニ其ノ實施ヲ爲ササルトキ、

其ノ實施ヲ繼續シテ六月以上中止シタルトキ、其ノ實施ニ付充分ノ努力若ハ施設ヲ爲ササルモノト本所ニ於テ認メタルトキ又ハ本所ニ支拂フヘキ報酬金ノ支拂ヲ遲滯シ其ノ他ノ實施ノ條件ニ違背シタルトキハ本所ハ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ取消シ損害ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

十、財團法人理化學研究所研究生規程ニ依リ國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之レヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトシ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

十一、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタル場合ニ於ケル研究生依託者ニ對スル實施權ノ許諾ニ關スル條件及許諾ノ取消ニ付テハ第四項第五項第八項及第九項ノ例ニ依ル

十二、前項ノ規定ニ依リ本所カ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究生依託者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ研究生ヲ指導シタル主任研究員ノ意見ヲ聽キ本所ト研究依託者ト協議シテ之レヲ定ム

十三、實用新案ノ登錄ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ニ付テモ本內規ノ例ニ依ル

〔財團法人理化學研究所研究生規程〕

第一條　研究生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニ依リ研究員ノ指導ノ下ニ研究ニ從事スルモノトス

第二條　研究生ハ專門ノ素養アル者ニシテ研究室主任ノ推薦ニ依リ所長之ヲ任用ス

第三條　研究生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條　研究生ノ研究ニ要スル諸費ハ依託者ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ本所之ヲ支辨スルコトアルヘシ

第五條　研究生ノ研究期間ハ二ケ年以內トス但シ研究ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ研究室主任ノ許可ヲ得テ延期スルコトヲ得

第六條　研究生疾病其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス

第七條　研究生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

〔財團法人理化學研究所工場技術練習生規程〕

第一條　練習生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニヨリ工作係指導ノ下ニ實習ニ從事スルモノトス

第二條　練習生ハ相當ノ經歷アル者若ハ試驗ノ上適當ト認メタル者ノ內ヨリ所長之ヲ任用ス

第三條　練習生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條　練習生ノ實習ニ要セル諸費ハ本所之ヲ支辨ス但シ時宜ニ依リ依託者ノ負擔トスルコトアルヘシ

第五條　練習生ノ實習期間ハ二ケ年以內トス但シ實習ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ工作係ノ許可ヲ得テ延期スル事ヲ得

第六條　練習生疾病其ノ他ノ事項ニ依リ作業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス

第七條　練習生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

五　位置、建物及設備

昭和十年三月末日現在

〔位置〕　當所は本鄕、小石川兩區の最北部の境界に跨つてゐて、購入敷地一萬二千坪（此價格金四拾參萬壹千參百拾圓八拾八錢）及岩崎男爵家寄附敷地二千八百十二坪である。即ち

本鄕區駒込上富士前町　一萬五百七十八坪
小石川區駕籠町　四千二百三十四坪

〔建物及設備〕　當所の建物及設備は、大正七年度工事に着手し、大正十一年度に完成の豫定であつたが、工事着手後建設材料及工賃の暴騰したのと、寄附金の收入が豫期の通りにならなかつたので、已むを得ず緊急を要するものから逐次施工したるが爲め、豫定の期間内に完成するに至らず、大正十四年度内に於て漸く豫定計畫の工事を終了した。而して研究の進むと共に從來の研究設備の擴張を必要とするもの、或は新に半工業的實驗設備を爲す必要を生じた爲め、建物設備が追加されて、創立以來昭和九年度末迄に投じた延設費は、敷地費を併せて總額金六百五拾貳萬六千六百八圓五拾九錢に達した、其明細は左の通りである。

建物の名稱は、正門を入り向つて左側を奇數、右側を偶數として、凡て番號を附けて居る。

第一號館　飯盛、磯部、和田、久保田、眞島(利)、鈴木(庸)、鈴木(梅)、大河内の八研究室、外に物品倉庫係、天秤室、燃燒室、引火性液蒸溜室、送風機室

第二號館　石田、磯部、西川、大河内、高嶺、長岡、眞島(正)、木下、寺田、仁科の十研究室、恆溫室、材料研究室、圖書室、講演室、事務室

第三號館　石田、西川、高嶺、木下、長岡、仁科の六研究室

第四號館　西、瀨藤の二研究室、電力室及電氣爐室

第五號館　各種交直流發電機室、液體空氣及酸素の製造場等

第六及八號館　機械工場、木工場、硝子工場、精密機械室、設計製圖室、內燃機關室、調臺室

附屬——鑄工及鍛工場

第七號館　各種實驗場

第九號館　精機部作業場

第十號館　實驗室、書庫等

第十一號館　有機酸、レバー等の研究及作業場

第十二號館　化學實驗室

第十三、十五、十七號館　ヴイタミンAに關する研究及作業場

第十四號館　實驗室

第十九號館　合成酒及アルコール蒸溜室

第二十一號館　酒貯藏庫

第二十三號館　井口、飯高、仁科、大河内、野口、深川の六研究室

第二十五號館　榮養素、デリカ等の研究作業場

第二十七號館　酸化皮膜研究室

是等建物の延坪數と建築費及設備費は左の通りである。

建物明細書

昭和十年三月末日現在

名稱	構造	延坪數	價額	備考
第一號館	煉瓦三階	一、一二三	五七〇、一七二・二四	化學研究
第二號館	鐵筋四階	一、一五一	五〇二、一九九・六八	物理研究
第三號館	鐵筋二階	三一二	一一一、三四八・一五	物理研究
第四號館	鐵筋二階	三二五	一〇八、〇三五・八五	物理研究
第五號館	煉瓦平家	一六七	六二、二二七・四九	電力酸素
第六號館	鐵筋二階	四一一	一〇六、〇七〇・四五	機械製作
第七號館	鐵骨平家	一〇〇	一九、一〇二・四四	實驗室
第八號館	鐵骨平家	一一三	一六、五〇三・九五	機械製作
第九號館	鐵骨平家	一五三	二〇、九一二・一九	機械製作
第十號館	鐵骨平家	九六	九、三六六・八〇	實驗室
第十一號館	鐵骨平家	一三〇	三〇、九二九・八九	實驗室
第十二號館	木造平家	四〇	二、八二一・一五	化學實驗室
第十三號館	鐵骨平家	七二	一四、八六九・八五	ヴイタミン動物試驗室
第十四號館	木造平家	五二	一、〇〇〇・〇〇	實驗室
第十五號館	鐵骨平家	六〇	八、五三三・〇六	ヴイタミン製造
第十七號館	鐵骨平家	一一四	一六、七一九・五一	ヴイタミン製造
第十九號館	鐵骨二階	五九五	一〇二、二八九・九八	酒製造
第二十一號館	鐵骨平家	八〇	二二、七七五・七〇	酒貯藏庫
第二十三號館	鐵筋三階	六三三	一九八、二九七・五四	
第二十五號館	木造平家	六三	二、三七〇・六五	實驗室
第二十七號館	木造平家	五二	一、七二二・六三	實驗室
仁科研究室	木造平家	七	二九二・二二	
ヴA研究室	木造平家	二七	四、九七八・二四	
ヴA調劑室	木造平家	三六	二、五五七・四三	
材料置場	鐵骨平家	五七	六、一一四・七〇	
材料置場	鐵骨平家	三〇	三、二一八・三〇	
テトラリン工場（柏崎）	木造平家	四一〇	二七、五一七・八一	六棟
コランダム工場	木造平家	八九	八、一八六・〇七	

感光液工場	木造平家	七一	三、六四五・二四	二棟
トラヒチン	木造平家	一八	八二一・六五	
酒實驗室	木造平家	三	三一七・七〇	
毒瓦斯室	木造平家	八五	一、九〇九・三七	三棟
コランダム工場	木造平家	七九	二、九八七・五九	二棟
オートン				
反轉現像藥工場	木造平家	一六	六九二・二〇	
日中映畫膜工場	木造平家	三〇	三六〇・〇〇	
久保田研究室（柏崎）	木造平家	五一	二八、九三一・一〇	一部高壓實驗室
電氣爐室	木造平家	三〇	八、五九一・五二	
給水ポンプ室	煉瓦地階	一七	五、六七一・〇〇	
電氣爐室	鐵筋平家	四六	一二、七〇七・五〇	
鍛冶場	鐵筋平家	三六	九、七六七・五四	
鑄物場	鐵筋平家			
蓄電池室	木造平家	六	四一一・五〇	
藥品庫	同			
變壓塔	煉瓦平家	三	三九五・一五	

排水ポンプ室	鐵骨平家	四	二、六〇三・七〇	
工作場	鐵筋平家	七三	一八、八四〇・五〇	第二十三號館附屬
作業場	鐵筋平家	三五	一〇、〇一六・四一	〃
詰所	木造平家	二四	五、三〇一・六八	〃
守衛所	木造平家	四	一、二五〇・〇〇	〃
倉庫	木造二階	四二	五、四八〇・九五	〃
會議室	木造平家	一二〇	二六、五七二・八七	
炊事場	木造平家	二七	一、〇二四・九八	二棟
巡査合宿所	木造二階	一一八	一六、五〇〇・〇〇	
舊事務所倉庫	鐵骨平家	三	一、九五一・五八	
表門衛所	木造平家	九	三、三二五・七六	
裏門衛所	木造平家	三	三〇〇・三七	
住宅	木造平家	二五	四、四八四・五六	
住宅	木造二階	四三	四、九四六・〇五	

設備明細書

區別	價額	備考
器具機械	二、一八四、七一七・一三	
什器	一八七、六七四・五〇	

住宅	木造二階	一、七一四・六九	
倉庫	木造平家	二、〇六七・五二	
物置	木造平家	一、一九七・二四	
休憩室	木造平家	三、八三一・二〇	
浴室	木造平家	八四八・七〇	
便所・浴室	木造平家	四、六七九・二四	
便所	木造平家	二、一九六・〇七	
合計		二、一七七、四七七・一〇	

圖書		四四五、二九六・九〇	
電氣設備		三八一、一一三・二二	配線共
瓦斯水道設備		三〇二、九二三・七〇	タンク、井戸共
煖房設備		二五二、五一四・〇八	地階室及煙突共
構内設備		六四、一八一・〇八	
合計		三、八一八、四二〇・六一	

六　昭和十年度研究項目

〔研究事項〕　昨年度に於て研究事項は三百四十二種であつたが本年度に在ては三百五十六種に増加した。此等研究事項は、各研究室の主任研究員が随意に選擇するのである、又研究の範圍に於ても何等の制限をも置いてゐない、例へば化學者が物理の研究に立入ることも、物理學者が化學の研究に波頭することも共人の自由である。併し其の成績に就ては研究者は絶對の責任を負つてゐる。本年度の項目は次の如くである。

研究項目

昭和十年四月

I 飯盛研究室

一 化學變化に伴ふ放射線の研究
二 鑛物の陰極線發光に關する研究
三 放射線の化學作用及接觸作用
四 膠質化學に關する研究
五 感光發電池の特性及其應用
六 寫眞化學に關する研究
七 稀土類鑛物の研究
八 テルペン類の還元
九 生物に及ぼす放射線の作用
一〇 放射性元素の發生系統に就て
一一 アクチニウム系元素の研究

研究員 理學博士 飯盛里安
助手 理學博士 吉村恂
囑託 理學博士 岩瀬榮一
囑託 理學博士 岩瀬榮一
囑託 醫學博士 内山孝一
助手 理學士 石動弘
助手 理學士 畑晋
助手 鈴木鑛二
研究生 理學士 木村雄吉
研究員 理學博士 飯盛里安
助手 理學博士 吉村恂
研究員 理學理士 飯盛里安
助手 理學士 畑晋

一二 東京附近のロームの利用に關する研究
一三 アスファルト及之に類似せる物質の感光成分の研究
一四 樹脂に關する研究
一五 鑛物化學に關する研究

II 磯部研究室

一六 石炭、木材、タール、ピッチ、重油等の高溫高壓に於ける水素添加に關する一切の研究

研究員 理學博士 磯部甫
研究生 理學士 遠藤義臣
研究生 理學士 伊藤硯太郎
研究生 農學士 田中一彦
研究生 工學士 早川文
研究生 理學士 朝井一男
研究生 理學士 萱間太郎
研究生 理學士 箕作洋輔
研究生 理學士 中島正彦
研究生 理學士 高井英二
雇 杉本幾三郎
雇 青木英世
臨時雇 吉永儀一郎
臨時雇 阿部志郎
臨時雇 甲田陸男
臨時雇 吉田シゲ子

研究員 理學博士 飯盛里安
助手 理學博士 菊池宇宙
研究員 理學博士 飯盛里安
助手 理學博士 鈴木鑛二
研究員 理學博士 飯盛里安
助手 理學博士 鈴木二
助手 理學博士 菊池宇宙
研究員 理學博士 飯盛里安
研究生 理學博士 小林一郎

一七 電氣滲透に就ての研究
一八 オージオ波通信に關する研究
一九 コロイド反應に就て
二〇 火山瓦斯に關する研究
二一 吸着現象の研究
二二 生物のコロイドの現象に就て
二三 ゴムに關する基礎的研究
二四 セメント類
二五 特殊ゲル
二六 結晶の成長
二七 無鹽類の分子狀態
二八 溶液中に於ける溶質の分子狀態に就て
二九 液態アンモニヤ中に於ける金屬錯鹽

研究生 理學博士 今井貞省
研究員 理學博士 磯部市
研究生 鹿子島菊永
研究生 工學士 桂井富之助
囑託 理學博士 富永齊
囑託 理學博士 箕作新六
囑託 理學博士 岡田要
研究員 理學博士 草間時重
雇 北原武
研究員 工學士 前田勁
助手 山根茂
助手 庄司三
研究員 工學士 前田勁
助手 庄司隆三
助手 山本健齋
囑託 理學士 野尻貞雄
研究員 理學博士 芝彦一
助手 今瀧敏郎
助手 山本一
囑託 理學博士 芝井上彦敏

三〇 低溫に於ける液體並に固體の吸收スペクトルに就て

III 石川研究室（東北帝國大學内）

三一 弗素及その化合物の研究
三二 無機化合物の生成遊離エネルギーの決定
三三 活性炭素による二酸化硫黄の收着
三四 ハイドロ サルフアイトに關する研究
三五 チタニヤゲルによる氣體の收着
三六 亞硫酸鹽類の研究
三七 セレン化合物に關する研究
三八 硝子電極に關する研究

IV 石田研究室

三九 光線の通路往復によらざる光速度の比較測定

昭和十年度研究項目

研究員 理學博士 芝彦一
囑託 理學博士 井上敏
研究員 理學博士 石川總雄
雇 高井武八郎 佐藤
研究員 理學博士 石川總雄
囑託 理學博士 有井癸巳雄
研究員 理學博士 石川德豐
助手 室岡豐作
研究員 理學博士 石川總雄
研究生 理學博士 樋口泉
研究員 理學博士 萩澤浩
助手 總雄
研究員 理學博士 石川總雄
助手 室岡豐作
研究生 理學士 丸山謙次
囑託 理學博士 土井不曇

四〇 高壓電場内に於けるスペクトル線の變化に就て

研究員 ドクトルオブフイロソフイー 石田義雄
助手 檜山繁
助手 上島源司
助手 福島政一

四一 高壓に於て電子電荷量の精密測定

研究員 ドクトルオブフイロソフイー 石田義雄
囑託 マスタオブアーツ 福島巖
雇 末次豐太郎

四二 言語の音響的研究

研究員 ドクトルオブフイロソフイー 石田義雄
助手 理學士 村井賢
助手 田村整

四三 固體の理論並に固體の示す發散及び吸收スペクトルの理論に就て

助手 理學士 武藤俊之助
助手 理學士 武藤俊之助

四四 磁氣の理論

研究員 ドクターオブフイロソフイー 石田義雄
研究生 理學士 久保田廣

四五 H_1^1, H_2^2, H_1^1, H_2のスタルク効果の比較研究

V 井口研究室

四六 冷凍機用調節器

研究員 工學博士 井口春久
助手 工學士 長岡順吉
研究生 渡邊昭俊

四七 冷凍機試驗法及び冷媒流量計

研究員 工學博士 井口春久
助手 工學士 長岡順吉

四八 電氣機器の冷却法

助手 工學士 長岡順吉

四九 防熱材料に關する研究

研究員 工學博士 井口春久
助手 工學士 長岡順吉
囑託 工學士 長野悌介
囑託 工學士 野村英次

五〇 濕り空氣冷却器の研究

助手 工學士 長岡順吉
囑託 工學士 長野悌介
囑託 工學士 野村英次
雇 佐藤寅男

五一 流體よりの熱傳達の研究

助手 工學士 長岡順吉
研究生 工學士 渡邊昭俊
雇 矢代嘉久

五二 復水管異常腐蝕防止に關する研究

研究員 工學博士 井口春久
助手 工學士 長岡順吉
助手 工學士 谷下市松
研究生 理學士 細田懋
研究生 渡邊昭俊
雇 林仁之助

五三 短週期機械振動に關する研究

研究員 工學博士 井口春久
助手 工學士 長岡順吉
研究生 工學士 野中重弼
雇 林仁之助

五四 材料試驗機に關する研究

囑託 工學士 明石和衛
囑託 理學士 久田太郎
雇 服部好夫

五五 ダイナミツク・スタチツク・バランシング・マシン

囑託 工學士 明石和衛
助手 工學士 谷下市松
囑託 理學士 久田太郎

昭和十年度研究項目

五六 纖維素工業に關する研究
五七 高速度廻轉體の振動に關する研究
五八 薄板梁の安定

VI 飯高研究室

五九 輕合金の研究
六〇 金屬の腐蝕に就て
六一 ベリリウムに關する研究
六二 耐熱材料に關する研究
六三 電氣冶金に關する研究
六四 鑄込み條件と合金の性質との關係
六五 高溫度に於ける化學反應

研究員	工學博士	井口春久	
研究生	理學士	細田懋	
助手	工學士	谷下市松	
研究員	工學博士	井口春久	
研究生	工學士	野中重彌	
研究員	工學博士	飯高一郎	
雇		新津光一	
研究員	工學博士	飯高一郎	
研究生		武島正夫	
研究員	工學博士	飯高一郎	
研究生	理學士	山邊知定	
研究員	工學博士	飯高一郎	
研究生	パチエラーオブサイエンス	鹽田隆藏	
研究生	工學士	安東進	
研究生		相良清	
研究員	工學博士	飯高一郎	
雇		田中武	
研究員	工學博士	飯高一郎	
研究生	バチエラーオブサイエンス	鹽田隆藏	

六六 金屬と酸との化學反應
六七 陰極線に依る金屬の研究
六八 醱酵に關する研究
六九 環境と細菌の變化に就て

VII 西研究室

七〇 球狀火花間隙の研究
七一 高壓磁石發電機及び發火栓に關する研究
七二 電弧放電の研究
七三 高電壓用電壓計の研究

研究員	工學博士	飯高一郎	
研究生	理學士	山邊知定	
研究生		武島正夫	
研究員	工學博士	飯高一郎	
研究生	理學士	三宅靜雄	
囑託	マスターオブサイエンス	内藤敬	
研究生	農學士	久保淳三	
囑託	マスターオブサイエンス	内藤敬	
研究生	農學士	久保淳三	
研究員	工學博士	西健	
研究員	工學博士	本多侃士	
研究員	工學博士	西健	
助手	工學士	岡崎三郎	
研究生		塙義雄	
研究員	工學博士	西健	
研究員	工學博士	本多侃士	
助手	工學士	岡崎三郎	
研究員	工學博士	西健	
研究員	工學博士	本多侃一	
雇		御所康七	

昭和十年度研究項目

七四 絶緣油中に於ける高壓現象の研究

七五 高壓碍子の研究特にピン碍子特性及不良檢出に就て

七六 誘電體損に關する研究（高電壓蓄電器の研究）

七七 衝擊電壓並に避雷に關する研究

七八 異種誘電體境界面及誘電體と金屬との境界面に起る電氣現象

七九 氣中放電の研究

八〇 シエリング高壓電橋を應用せる誘電體現象の研究

八一 高濕度並に高周波に於ける誘電體現象の研究

VIII 西川研究室

研究員	工學博士	西川正治
研究生	工學士	石黒美種
助手	工學士	岡崎三郎
研究員	工學博士	西川健
助手	工學士	岡崎三郎
研究員	工學博士	西川健
助手	工學博士	岡崎三郎
研究生		中田義雄
研究員	工學博士	西川健
研究生	工學博士	景守祐
研究員	農學士	上田靜男
研究員	工學博士	本多侃士
囑託	マスターオブエレクトリカルエンヂニアリング	藤川由太郎
研究員	工學博士	北里次郎
研究員	工學博士	西岡健三
助手	工學士	崎義雄
研究生		境
研究員	理學博士	西川正治
囑託	理學博士	向坂義太郎
助手	理學士	數元伊之助
研究員	理學博士	西川正治
囑託	理學士	福島榮之助
研究員	理學博士	仁田勇
研究員	理學博士	仁田勇
研究員	理學博士	仁田勇
研究員	理學博士	仁田勇
研究生	理學士	吉田早苗
研究生	理學士	鳩山道夫
研究生	理學士	木村治一
研究員	理學博士	西川正治
囑託	理學博士	中川重雄
囑託	理學士	矢崎爲一
研究員	理學博士	菊池正士
研究員	理學博士	菊池正士

八二 X線廻折現象に於けるエキスチンクションの研究

八三 X線反射力の變化による機械的歪の研究

八四 有機化合物構造のX線的研究

八五 結晶格子內に於ける原子團の廻轉に關する研究

八六 固相轉移に關する結晶光學的研究

八七 X線スペクトルと化學的構造との關係

八八 高速度陰極線並に硬X線に關する研究

八九 人工放射能に關する研究

九〇 高速度イオン發生法に關する研究

九一 重水素と重水素の衝擊により發生する中性子に關する研究

九二 計數管の同時放電による宇宙線の研究

IX 仁科研究室

昭和十年度研究項目

九三 量子論

九四 宇宙線の研究

九五 原子核の變換並に人工放射能の研究

九六 中性子の研究

九七 陽電子の研究

X 本多研究室（東北帝國大學內）

九八 金屬材料の冷却中に於ける熱的內部歪の研究

九九 强磁性體論の研究

研究員	理學博士	仁科芳雄	
研究生	理學士	朝永振一郎	
研究生	理學士	玉木英彦	
研究生	理學士	小林稔	
研究員	理學博士	仁科芳雄	
研究生	理學士	嵯峨根遼吉	
研究生	理學士	石井千尋	
研究生	理學士	山崎文男	
研究生	理學士	竹內柾	
研究生	理學士	淺野芳廣	
研究員	理學博士	仁科芳雄	
研究生	理學士	嵯峨根遼吉	
研究生	理學士	新間啓三	
研究生	理學士	竹內柾	
研究生	理學士	杉本朝雄	
研究生	理學士	山崎文男	
研究生	工學士	嵯峨根遼吉	
研究生	工學士	天木敏夫	
研究生	理學士	嵯峨根遼吉	
研究生	理學士	杉本朝雄	
研究員	理學博士	本多光太郎	
助手	理學士	廣根德太郎	
研究員	理學博士	本多光太郎	
助手	理學士	廣根德太郎	

一〇〇 銅、ニツケル、亞鉛三元素に關する研究

一〇一 特殊銅合金に關する研究

一〇二 銅の燒入れに關する研究

一〇三 元素及び化合物の寫眞乾板に對する作用の研究

一〇四 低溫度に於ける鐵及鐵鹽類のX線吸收スペクトルの研究

一〇五 X線による結晶の研究

XI 大河內研究室

一〇六 陰極線オツシログラフの性質及製作に關する研究

一〇七 衝擊試驗に於ける力の測定

一〇八 バランシングに關する研究

一〇九 材料破壞に關する研究

研究員	工學博士	田丸莞爾	
研究員	工學博士	田丸莞爾	
囑託	工學博士	佐藤清吉	
助手	工學博士	山縣勝清	
研究員	理學博士	青山新一	
研究生	理學士	袋井忠夫	
研究員	理學博士	青山新一	
研究生	理學士	袋井忠夫	
助手	理學士	瀨川政	
囑託	理學博士	庄司彥六	
助手	工學士	渡邊俊平	
助手	工學士	渡邊俊平	
研究員	工學博士	大河內正敏	
研究生	工學士	斯波邦夫	
助手	工學士	田口渤三郎	

昭和十年度研究項目

一一〇　音と其記錄に關する研究

研究員　工學博士　大河內正敏
助手　工學士　渡邊俊平
助手　工學士　田口彌三郎
研究生　工學士　太原彥一
研究生　工學士　斯波邦夫

一一一　旋刀工具の切味に關する研究

研究員　工學博士　大越諄

一一二　金屬の磨耗に關する研究

研究員　工學博士　大越諄

一一三　工具の力學

研究員　工學博士　大越諄
助手　工學士　福井伸二

一一四　旋刀工具の大量生產方法の研究

研究員　工學博士　大河內正敏
研究員　工學博士　大越諄
研究生　本間勇作吉

一一五　プレス工作法に關する研究

研究員　工學博士　大河內正敏
助手　工學士　福井伸二
研究生　松田正一

一一六　壓延に關する研究

研究員　工學博士　大河內正敏
助手　工學士　福井伸二
研究生　松田正一

一一七　鋼球の精密工作法

研究員　工學博士　大河內正敏
囑託　小田耕介
研究生　本間勇作吉
研究生　松田正一

一一八　特殊工作機械に關する研究

研究員　工學博士　大河內正敏
助手　工學士　宮部甫

一一九　ピストンリングに關する研究

研究員　工學博士　大河內正敏
研究員　工學博士　海老原敬吉

一二〇　平面の精密仕上に關する研究

研究員　工學博士　大河內正敏
研究員　工學博士　海老原敬吉

一二一　粒體混合機構に關する研究

研究員　工學博士　大內河正敏
助手　工學士　大山義年

一二二　化學工業機械

研究員　工學博士　大河內正敏
囑託　アーツ・マスター・オブ　渡邊政德

一二三　炭酸瓦斯工業

研究員　工學博士　大河內正敏
囑託　工學士　眞田玄次郎

一二四　熱の傳達狀況に關する研究

研究員　工學博士　九河內正敏
助手　工學士　前田正樹

一二五　金屬及び合金の腐蝕に關する研究

研究生　理學士　山本洋一

一二六　窒化物に關する研究

助手　理學博士　佐藤俊一
臨時雇　星芳次郎

一二七　電熱によるマグネシヤ及びアルミナの直接還元に關する研究

研究員　工學博士　大河內正敏
助手　工學士　尾間一彥
助手　工學士　福井伸二
研究生　松田正一

一二八　金屬マグネシウム製造法の改良

研究員　工學博士　大河內正敏
助手　今富祥一郎

一二九　熔融鹽の電解に關する研究

助手　今富祥一郎

昭和十年度研究項目

一三〇　クロム鐵鑛の利用
一三一　高級耐火材料の製造

XII　和田研究室

一三一　ガリウムの分離及定量
一三二　電壓滴定に關する研究
(A)　金屬シアン錯鹽と金屬元素との反應
(B)　一新原理による直接滴定法
(C)　示差電氣滴定裝置
(D)　微量混合物等の示差電氣滴定
一三四　珪酸の容量分析法
一三五　多原子分子のスペクトル
一三六　種々なる化合物の轉移點降下
一三七　或る觸媒の作用

研究員　理學博士　和田猪三郎
助手　理學博士　北島三省
助手　理學博士　加藤セチ
囑託　理學士　大幸甫
囑託　理學士　飯島俊一郎
研究員　理學博士　阿藤質
助手　理學博士　齋藤正一郎
研究員　工學博士　大河内正敏
助手　工學博士　尾間一彦
研究員　工學博士　大河内正敏
助手　工學博士　尾間一彦

一三八　日本標準規格の調査に要する諸研究
一三九　ポリアシッドの研究
一四〇　溶液に於ける鹽類の光分解
一四一　銀タリウム群の分離
一四二　定量分析上重要なる化合物の示性式
一四三　レニウム分離法
一四四　有機化合物とハロゲンとの反應

XIII　片山研究室（東京帝國大學内）

一四五　化學構造の理論的研究
一四六　有機化合物の重水素置換問題

昭和十年度研究項目

研究員　理學博士　和田猪三郎
助手　理學博士　北島三省
助手　理學博士　石井顯三郎
研究生　理學士　關野幹次郎
助手　理學博士　北島三省
助手　理學博士　加藤セチ
研究員　理學博士　和田猪三郎
助手　理學博士　石井顯三郎
研究員　理學博士　和田猪三郎
助手　理學博士　北島三一雄
研究員　理學博士　和田猪三郎
助手　理學博士　石井顯三郎
研究生　染野藤子
研究員　理學博士　片山正夫
研究員　理學博士　水島三一郎
研究員　理學博士　片山正夫
囑託　理學博士　堀内壽郎

一四七　立體化學構造と分子極性との關係に就て　研究員　理學博士　水島三一郎
一四八　ラマン効果の新構造論的研究　研究生　理學士　兒島邦夫
一四九　化學速度論の研究　研究員　理學博士　水島三一郎
一五〇　氣體多成分系の分子流出に就て　研究生　理學士　森野米三
一五一　有機化合物の双極子能率の研究　囑託　理學士　小島韻男
一五二　簡單なる鎖狀化合物の振動効果に就て　囑託　理學士　安積宏
一五三　蒸氣の透電恒數の分子論的研究　囑託　理學士　東健一

XIV 高嶺研究室

一五四　眞空放電に於ける吸收スペクトル　研究員　理學博士　高嶺俊夫
　　助手　理學士　須賀太郎　中澤四郎
一五五　赤外スペクトル　研究員　理學博士　高嶺俊夫
　　助手　理學士　須賀太郎
一五六　眞空分光器に依る極端紫外部スペクトル檢査　助手　理學士　須賀太郎　芋谷曉史　伊澤彥次郎　雇

一五七　極端紫外部に於ける水素及び重水素の分子スペクトル　研究員　理學博士　藤岡由夫
一五八　重水素と金屬化合物の分子スペクトル　研究生　理學士　田中善雄
一五九　超高振動電波に依つて發輝するスペクトル　研究員　理學博士　福田光治
一六〇　金屬スペクトルに現はれる連續スペクトル　研究員　理學博士　福田光治
一六一　金屬分子の波狀スペクトル　研究員　理學博士　福田光治
一六二　量子統計力學　囑託　理學士　富山小太郎
一六三　眞空放電機構　研究員　理學博士　高嶺俊夫
一六四　AuH 帶スペクトル線の超微細構造　囑託　理學士　富山小太郎
一六五　AuCl 帶スペクトルの構造　研究員　理學博士　今西直
一六六　C_2S 蒸氣及び液體のラマン効果　研究員　理學博士　今西直

XV 長岡研究室

一六七　プロトン並に陽イオンと原子核との相互作用の研究　研究員　理學博士　杉浦義勝
　　助手　理學士　皆川理

一六八　原子變換試驗と微量元素の檢定
一六九　KH電離層と地磁氣の關係
一七〇　超短波を用ひスペクトル線超微構造測定
一七一　無極放電の研究
一七二　高電壓强電流を用ふるスペクトルの研究
一七三　電磁コイル其他の計算
一七四　電子の波狀構造及びこれに關する諸問題

XVI　野口研究所

一七五　一次及二次電池の研究
一七六　電解成極の逆起電力に關する研究
一七七　高溫度に於ける電氣絕緣

研究員　理學博士　長岡半太郎
雇　町田岩次郎
研究員　理學博士　長岡半太郎
助手　池邊常刀
研究員　理學博士　長岡半太郎
助手　三島忠雄
研究員　理學博士　長岡半太郎
助手　三島忠雄
研究員　理學博士　長岡半太郎
助手　理學士　二神哲郎
研究員　理學博士　長岡半太郎
助手　櫻井定三
囑託　工學士　柿沼宇作

研究員　工學博士　野口孝重
研究員　工學博士　野口孝重
助手　栗田穰
雇　林忠顯
研究員　工學博士　野口孝重
雇　林忠顯

一七八　雲母の電氣絕緣性能
一七九　高級內燃機用點火栓
一八〇　電氣的波形分析機
一八一　電氣滲透淨水法
一八二　電解に依る重水の濃縮

XVII　久保田研究室

一八三　自然瓦斯の利用に關する研究（其一）
一八四　同　（其二）
一八五　水素添加作用の研究（其一）

研究員　工學博士　野口孝重
研究員　工學博士　野口孝重
雇　林忠顯
研究員　工學博士　野口孝重
雇　林忠顯
雇　狩野正信
研究員　工學博士　野口孝重
雇　山田義廣
研究員　工學博士　野口孝重
助手　栗田穰
雇　山田義廣
雇　五十嵐順一
研究員　理學博士　久保田勉之助
助手　山中龍雄
助手　二木寧雄
助手　理學士　赤司嘉志和
囑託　理學士　山口文太郎
研究員　理學博士　久保田勉之助
助手　理學士　吉河清

昭和十年度研究項目

一八六　同　（其一）
一八七　同　（其二）
一八八　公採樹葉中より抽出せらるゝ成分研究　（其一）
一八九　同　（其二）
一九〇　有機化合物の構造研究に對するラマン効果の應用
一九一　多價アルコールの研究
一九二　鎖式不飽和炭化水素の鹽素化に關する研究
一九三　アルカリ熔融による複素環式體の生成に關する研究
一九四　オレフイン鹽化物による合成に關する研究

XVIII　眞島（利）研究室　（一部は大阪帝國大學内及東北帝國大學内）

一九五　特種有機化合物と其生理作用との關係

研究員　理學博士　眞島利行
研究生　理學士　村橋俊介

研究員　理學博士　久保田勉之助
助手　理學博士　二木寧雄

研究員　理學博士　久保田勉之助
助手　理學博士　山中龍雄

助手　理學士　古川周

研究員　理學博士　久保田勉之助

研究生　理學士　林太郎

助手　理學士　吉河清

研究生　理學士　花井定彦

研究員　理學博士　久保田勉之助
助手　山中龍雄
二木寧雄

研究員　理學博士　久保田勉之助
助手　山中龍雄
二木寧雄

囑託　（パテンターオブサイエンスインケミストリ）　龜澤精一郎

一九六　特種色素に關する研究
一九七　建染染料に關する研究
一九八　チオインヂゴ屬色素の研究
一九九　赤外線感光色素の合成
二〇〇　アゾ色素の研究
二〇一　天然色素の研究
二〇二　細菌性色素の研究
二〇三　動物の發光體に關する研究
二〇四　エセリン核を有する化合物の合成
二〇五　水產化學に關する研究
二〇六　油脂不鹼化物の研究
二〇七　配糖體の合成
二〇八　炭水化物の分解還元に關する研究

昭和十年度研究項目

研究員　理學博士　眞島利行
囑託　理學博士　村上增雄
研究生　理學士　入江遠

研究員　理學博士　眞島利行
囑託　理學博士　中西又雄

研究員　理學博士　尾形輝太郎
研究生　理學士　丸山職一

研究員　理學博士　尾形輝太郎
雇　松隈トキヨ

囑託　理學博士　上野繁藏

囑託　理學博士　黒田チカ
雇　和田水

研究生　（パチエラーオブアーツ）　中村照子

囑託　（ドクターオブフイロソフイー）　神田左京

囑託　理學博士　星野敏雄

囑託　理學博士　林喬

囑託　理學博士　川合眞一

研究員　理學博士　藤瀬新一郎
研究生　理學士　三井生喜雄

研究生　理學士　丹野恒治
研究生　農學士　原毅

二〇九　油脂類に關する研究

XIX　眞島(正)研究室

二一〇　熱輻射線測定法
二一一　金屬の粘性變形に關する研究
二一二　物質の緩衝作用の研究
二一三　急速加熱による金屬の變態點の研究
二一四　六方晶系結晶のラヂオグラフ
二一五　電場に於ける微粒の運動
二一六　精密歪計の研究
二一七　ゴム類の體積彈性係數の研究
二一八　衝撃現象の研究
二一九　光彈性實驗の研究

囑託	理學士	小山亮清
研究員	工學博士	眞島正市
研究員	工學博士	眞島正市
助手	工學士	作井誠太
研究員	工學博士	眞島正市
助手	工學士	作井誠太
研究員	工學博士	眞島正市
助手	工學士	作井誠太
研究員	工學博士	眞島正市
研究員	工學博士	眞島正市
研究員	工學博士	辻二郎
研究員	工學博士	辻二郎
研究生		大島秀男
研究員	工學博士	辻二郎
研究生	工學士	西田正孝
研究員	工學博士	辻二郎
雇		和田謙之助
助手	工學士	黒田正夫
助手	工學士	黒田正夫
研究生		渡邊恒
助手	工學士	黒田正夫
研究生		渡邊恒
囑託	工學博士	山口珪二
囑託	工學博士	山口珪二

二二〇　不均一部ある構造物の內力の研究
二二一　フェノライト製作の研究
二二二　金屬破壞機構の研究
二二三　粘性液體の研究
二二四　微細目盛の研究
二二五　金屬單結晶の研究
二二六　變態點に於ける變形

XX　深川研究室

二二七　復水管異常腐蝕現象並に其防止に關する研究
二二八　銅合金腐蝕の際に於けるパーティングに關する研究
二二九　諸金屬の高溫度酸化現象に關する研究

昭和十年度研究項目

研究員	理學博士	深川庫造
助手		神山賢一郎
研究員	理學博士	深川庫造
助手		神山賢一郎
研究員	理學博士	深川庫造
助手	理學士	鈴木豐
助手		神山賢一郎

二二〇 特種塗料に關する研究
(イ) 船底に固着する生物の生態學的研究
(ロ) 船底塗料の化學的研究
二三一 有機性絶縁體に關する化學的研究
二三二 魚介類の生物化學的研究
二三三 油脂の研究
二三四 穀穀利用の研究
(イ) 活性炭製造の研究
(ロ) 含有物質の化學的研究
二三五 揮發性金屬化合物の化學的研究
二三六 繰返し熱壓力に依る金屬の龜裂發生現象に關する研究

囑託	理學博士	野村七錄	
囑託	理學士	石田周三	
研究員	理學博士	深川庫造	
研究生	理學士	崔三悅	
研究員	理學博士	深川庫造	
研究生	理學士	崔三悅	
研究生	理學士	趙廣河	
臨時雇	理學士	狩野康	
研究員	理學博士	深川庫造	
研究生	理學士	崔三悅	
研究生	理學士	趙廣河	
臨時雇	理學士	竹下博	
研究員	理學博士	深川庫造	
助手	理學博士	神山賢一郎	
臨時雇	理學博士	大橋雄二	
研究員	理學博士	深川庫造	
助手	理學士	鈴木豐	
研究員	理學博士	深川庫造	
囑託	理學士	木山英一	

二三七 特種鑄鐵の研究
二三八 活性炭の研究
二三九 齒材合金の研究
二四〇 接觸反應の研究
二四一 蠟蜍の有毒成分の化學的研究
二四二 配糖體に關する研究
二四三 ストリキニーネの化學的構造の研究

研究員	理學博士	深川庫造	
助手	理學博士	神山賢一郎	
臨時雇	理學博士	狩野康	
囑託	理學士	余六鐵	
囑託	理學士	畠田詮二	
研究員	理學博士	深川庫造	
囑託	理學士	余六鐵	
研究員	理學博士	小竹無二雄	
研究員	理學博士	小竹無二雄	
研究員	理學博士	小竹無二雄	

XXI 寺田研究室

二四四 瓦斯の爆發に關する研究
二四五 熱電氣に關する研究
二四六 絶縁體の性質に關する研究
二四七 物體表面の粗鬆度に關する研究

研究員	理學博士	寺田寅彦	
助手	理學士	湯本清比古	
研究員	理學博士	寺田寅彦	
助手	理學士	筒井俊正	
研究員	理學博士	寺田寅彦	
助手	理學士	筒井俊正	
助手	理學士	筒井俊正	

昭和十年度研究項目

二四八　振動體による液體の運動
二四九　X線による物質構造の研究
二五〇　固體の變形及破壞に關する研究
二五一　火花放電に關する研究
二五二　火災に關する研究
二五三　分子物理學
二五四　火花放電に關する研究
二五五　燃燒現象の物理的研究
二五六　陶器の割れ目に關する研究

XXII　喜多研究室（京都帝國大學内）

二五七　桐油に關する研究

助手　理學士　筒井俊正
研究員　理學博士　寺田寅彦
助手　理學士　平田森三
研究員　理學博士　寺田寅彦
助手　理學士　山本龍三
研究員　理學博士　寺田寅彦
囑託　理學博士　中谷宇吉郎
助手　山本龍三
研究員　理學博士　渡邊寅雄
囑託　理學士　芝亀吉
囑託　理學士　田幸彦太郎
囑託　理學士　金原壽郎
囑託　理學士　福島清
囑託　工學士　馬詰哲郎

二五八　油脂の重合に關する研究
二五九　ハロゲンヒドリンに關する研究
二六〇　メタンの利用及高級インダンスレン系染料の合成
二六一　一酸化炭素の常壓接觸的還元によるベンヂンの合成
二六二　ヴイスコース其他纖維素製品に關する研究
二六三　パルプに關する研究
二六四　纖維形態學の研究
二六五　澱類合成に關する研究
二六六　米澱粉特に米飯のコロイド化學的研究
二六七　コロイドの粘度的性質に關する研究
二六八　コロイド溶液の擴りに關する研究

昭和十年度研究項目

助手　紀喜一郎
助手　工學士　端宏郎
囑託　工學士　小田良平
研究員　工學博士　喜多源逸
囑託　工學士　常岡俊三郎
雇　村田義夫
研究員　工學博士　喜多源逸
囑託　工學士　富久松利光
研究生　喜多源逸
研究員　工學博士　喜多源逸
囑託　工學博士　中島正一
助手　工學士　宍戸圭一
研究生　松下由太郎
囑託　理學博士　小原亀太郎
助手　工學士　宍戸圭一
研究員　工學博士　櫻田一郎
研究生　工學士　谷口政勝
囑託　工學博士　中島正治
研究生　根岸道

二六九　高分子物質に關するX線的研究
二七〇　有機コロイドの透電的研究
二七一　分子の會合及錯化合物の生成と極性

XXIII　木村研究室（京都帝國大學内）

二七二　紫外領域に於ける沃度のスペクトル
二七三　瓦斯反應の分光學的研究
二七四　高溫度に於けるハロゲンの發光
二七五　ハロゲン分子の發光及び吸收スペクトル間の關係
二七六　紫外領域に於ける金屬薄膜の反射能
二七七　酸素の禁制線
二七八　ベンゾール單誘導體に於ける近赤外吸收帶に就て
二七九　内部電子の勵起に就て

研究員	工學博士	櫻田一郎	
助手	理學士	湯野川桂六郎	
研究生		松下由太郎	
研究員	工學博士	櫻田一郎	
助手	理學士	湯野川桂六郎	
研究員	工學博士	櫻田一郎	
研究生	工學博士	谷口政勝郎	
研究員	理學博士	木村正路	
囑託	理學博士	宮西通可	
囑託	理學博士	内田洋一	
囑託	理學博士	内田洋一	
研究生	理學士	副島吉雄	
研究員	理學博士	木村正路	
研究生	理學博士	深川修吉	
囑託	理學博士	淺越貫一	
囑託	理學博士	淺越貫一	

XXIV　木下研究室

二八〇　潤滑油の研究
二八一　霧の輻射線透過に就て
二八二　熱輻射に關する研究
二八三　攝氏零度の絶對溫度値測定
二八四　超音波の研究
二八五　溫氣の滲透及び溫度計に就て
二八六　低溫に於ける彈性係數の研究
二八七　高壓高溫水管の熱傳播に就て

昭和十年度研究項目

研究員	工學博士	木下正雄	
助手	理學士	菅義夫	
研究員	工學博士	木下正雄	
助手	工學博士	山下清雄	
研究員	工學博士	木下正雄	
助手		内山正雄	
研究員	工學博士	木下正雄	
助手	工學博士	石井千尋	
研究員	工學博士	木下正雄	
助手	理學士	石井千尋	
囑託	理學博士	阿部邦彦	
囑託	理學博士	岡勝哉	
研究員	工學博士	木下正雄	
助手	理學士	菅義夫	
囑託	理學博士	吉岡勝哉	
研究員	工學博士	木下正雄	
助手	工學博士	石井千尋	
囑託	理學博士	阿部邦彦	
研究員	工學博士	木下正雄	
囑託	理學博士	早川康二郎	
研究生	理學博士	大石正弐	
研究員	工學博士	木下正雄	
囑託	理學博士	内山清雄	
研究員	工學博士	木下正雄	
助手	理學士	菅義夫	
研究員	工學博士	木下正雄	
助手	理學士	吉岡勝哉	
囑託	理學博士	岡勝哉	
研究員	工學博士	木下正雄	
研究生	工學博士	川下研介	

XXV 瀬藤研究室

二六八　アルミニウム酸化皮膜生成法の改良

二六九　アルミニウム酸化皮膜の性質

二七〇　アルミニウム酸化皮膜の電氣的應用

二七一　アルミニウム絶緣電線の製法

二七二　アルミニウム酸化皮膜の塗裝と其應用

二七三　電氣的座標計器の研究

研究員	工學士	瀬藤象二	
雇	工學士	鍛冶原一良	
研究員	工學士	瀬藤象二	
雇	工學士	鍛冶原一良	
臨時雇		岡田夫	
研究員	工學士	瀬藤象二	
雇	工學士	相澤良吉	
研究員	工學士	瀬藤象二	
雇	工學士	宮田守太郎	
研究生	工學士	江木直男	
研究員	工學士	瀬藤象二	
雇	工學士	鍛冶原一郎	
研究員	工學士	瀬藤象二	
研究生	工學士	小沼治光	
雇	工學士	片寺桐井敏直	
研究生	工學士	瀬藤象二	
雇	工學士	齋藤象治	

二七四　絶緣破壞電壓の統計的研究

二七五　エナメル線被覆方法の改良

二七六　誘電體の絶緣破壞の研究

二七七　高抵抗の研究

二七八　琥珀に關する研究

二七九　電磁型及靜電型サイクログラフの改良と應用

三〇〇　塗裝絶緣電線試驗機に就て

三〇一　電解型蓄電器の特性及製法

三〇一　電解型蓄電器の應用

三〇二　アルミニウム酸化皮膜の一般應用

昭和十年度研究項目

研究員	工學士	赤尾武一雄	
雇	工學士	赤尾武一雄	
研究員	工學士	赤尾武一雄	
雇	工學士	赤尾武一雄	
研究員	工學士	赤平武雄	
雇	工學士	赤平武

三〇四　漆の電氣的性質

XXVI　鈴木(庸)研究室

三〇五　有機硫黄化合物に就て
三〇六　耐火材料
三〇七　感光性色素の寫眞化學的研究
三〇八　赤外線寫眞
三〇九　アゾ染料應用に關する研究
三一〇　膠質化學に關する研究
三一一　船底塗料の研究
三一二　寫眞乳劑化學に關する研究
三一三　セメントに關する研究
三一四　炭酸マグネシウム製造に關する研究

研究員	工學士	宮田聰
雇	工學士	相澤良治
研究生	工學士	西村順一
研究員	理學博士	山口與平
助手		武部俊正
助手	理學博士	櫻井季雄
雇		吉村節子
助手	理學博士	櫻井季雄
助手	理學博士	櫻井季雄
技手		田沼三千尋
助手	理學博士	稻葉見敬
臨時雇		渡邊泰藏
助手	理學博士	稻葉見敬
囑託	工學士	關島信之助
研究生	理學士	笠井康一
助手	理學博士	寺田喜代松

三一五　保温材に關する研究
三一六　結晶アルミナに關する研究
三一七　光分解に關する研究
三一八　アルミニウム製造の研究
三一九　有機セレン化合物の研究

XXVII　鈴木(梅)研究室

三二〇　榮養に關する研究
三二一　新清酒の製造
三二二　米を原料とするアルコールの製造
三二三　醗酵生産物に就て
三二四　醸造物の香氣研究

昭和十年度研究項目

助手	理學博士	寺田喜代松
研究員	農學博士	鈴木梅太郎
助手	理學博士	和田孝雄
研究員	理學博士	鈴木庸生
助手		和田孝雄
研究員	理學博士	鈴木庸生
助手	工學士	田中寛
研究生	工學士	淺田隆次郎
研究員	農學博士	鈴木梅太郎
囑託	農學博士	加藤正二
囑託	理學士	鈴木正策
技師	農學士	大嶽六郎
		飯田茂夫
研究員	農學博士	鈴木梅太郎
技師	農學博士	吉村信三
研究生	理學士	東恒人
研究生	農學士	庄司謙次郎

三三五　高粱酒の研究
三三六　炭化水素の接觸酸化に關する研究
三三七　米糠及醬油の油中の成分並に其利用法
三三八　ビオステリンの研究
三三九　ヴイタミンAの化學的性質に關する研究
三四〇　肝油の不鹸化物に就て
三四一　脂肪及リポイドに關する研究
三四二　無脂肪飼料による榮養試驗
三四三　人造バターの研究
三四四　ヴイタミンD並にステリン類に關する研究
三四五　白米のリゾレシチンの研究
三四六　病原菌による植物被害組織の化學的研究

技師　農學士　吉村信三
技師　農學博士　下瀬林太
研究生　農學　青山伊佐男
研究員　農學博士　鈴木梅太郎
研究生　理學士　島本造
研究生　橋本鶴太郎
研究員　農學博士　中宮永郎
助手　農學士　山本巖夫
技師　農學士　濱野貞行
助手　川上行藏
研究員　農學博士　鈴木文助
研究生　農學士　井上吉之
研究生　農學　棒鳥祝
囑託　ドクトル・オブ・フイロソフイー　丹下ウメ
雇　道喜美代
囑託　農學士　大堀俊雄
研究生　農學博士　鷲見瑞穗
技師　農學博士　岩田元兄
研究員　農學博士　藪田貞治郎
研究生　農學士　麻生清

三三七　動物癌腫に關する研究
三三八　肝臟の成分に就て
三三九　漿類の榮養試驗
三四〇　ヴイタミンCの研究
三四一　綠茶の成分に就て
三四二　綠茶香氣の成分
三四三　蛋白分解物の榮養試驗
三四四　アミノ酸の研究
三四五　調味成分に關する研究
三四六　米胚芽の成分に就て
三四七　小麥胚芽の成分研究

昭和十年度研究項目

研究員　醫學博士　中原和郎
研究生　マスタ・オブ・アーツ　德山總太郎
研究生　染川英一
研究員　醫學博士　中原和郎
研究生　農學博士　犬飼文人
囑託　農學士　鵜上三郎
研究生　醫學士　松岡登
研究生　農學士　丸山拾吉
研究生　農學博士　辻村みちよ
囑託　農學博士　武居三吉
研究生　農學士　前田司郎
研究生　農學士　小川洋
研究生　マスタ・オブ・アーツ　德山總太郎
研究生　理學士　金良哉
研究生　農學士　市場彰芳

三六八　臺灣產植物の化學成分
三六九　果精に關する研究
三七〇　塗料の研究
三七一　アスファルトに關する研究
三七二　デリス根の利用法
三七三　天然絹絲の再製に就て
三七四　樟腦に關する研究
三七五　有機化合物の藥理實驗
三七六　有機物の微量分析法

研究員　農學博士　山本　亮
囑託　農學士　新井勝五郎
囑託　農學士　渡邊儉雄
研究生　農學士　前田昱雄
研究生　和田俊之
囑託　農學士　中澤　清
研究生　農學士　山賀益三
研究員　農學博士　佐橋佳一
研究生　農學士　武内邦久
研究生　理學士　島本鵬造
研究生　農學士　伊木常安
研究生　農學士　田中捷夫
研究生　農學士　舟橋三郎
雇　松本壽美

七　昭和十年度收入支出豫算

收入之部

科目	豫算額	前年度ニ比シ增減△印減	備考
政府補助金	一五〇、〇〇〇・〇〇 円	△一〇〇、〇〇〇・〇〇 円	
寄附金	一〇〇、〇〇〇・〇〇	一〇〇、〇〇〇・〇〇	
諸利息	一三三、七九四・〇〇	六六、二四四・〇〇	
基金收益	七二、三五二・〇〇	一三、二四九・〇〇	
有價證券收益	六〇、四四二・〇〇	五二、九九五・〇〇	〔御下賜金百萬圓ノ七分二厘三毛五絲利〕〔有價證券八十三萬五千四百圓ノ七分二厘三毛五絲利〕
當座預金利息	一、〇〇〇・〇〇		
其ノ他ノ收入	四五六、八〇六・〇〇	一一二、五八九・〇〇	
特種研究費寄附	一九、〇〇〇・〇〇	六七二・〇〇〇	〔此內金十五萬八千圓也ハ特許權實施許諾報酬金ナリ〕
特許權實施報酬等	四三四、三〇六・〇〇	二二〇、九三九・〇〇	
貸地貸家料	三、五〇〇・〇〇	△二二・〇〇	構內土地建物賃貸料
合計	八四〇、六〇〇・〇〇	一八七、八三三・〇〇	

支出之部

科目	豫算額	前年度ニ比シ増減 △印減	備考
事務費	四九、三〇〇・〇〇円	△	
俸給及諸給	二七、五〇〇・〇〇	△	
業務費	二二、八〇〇・〇〇	△	
雑品及消耗品費	一、九〇〇・〇〇	△	
印刷費	七五〇・〇〇		
通信運搬費	四〇〇・〇〇	△	
旅費	一〇〇・〇〇	△	
會議費	六〇〇・〇〇	△	
接待費	三〇〇・〇〇		
賄費	五、六〇〇・〇〇	△	
租税	四、八五〇・〇〇	△	
火災保險料	一、一〇〇・〇〇	△	
修繕費	四、八〇〇・〇〇	△	
雑費	一、四〇〇・〇〇	△	
研究費	七七一、三〇〇・〇〇	三二、五五〇・〇〇円	
		一、〇〇〇・〇〇	〔事務ニ従事スル職員及雇傭人ニ對スル分
		二、五五〇・〇〇	
		一〇〇・〇〇	
		二〇〇・〇〇	案内其他印刷費
		一五〇・〇〇	
		一、一五〇・〇〇	〔研究及事務ニ従事スル職員及雇傭人賄費
		一、八五〇・〇〇	地租其ノ他
		三〇〇・〇〇	〔木造建物及什器研究室内機械圖書什器ニ對スル保險料
		八〇〇・〇〇	
		四〇〇・〇〇	
		八五、三〇〇・〇〇	

科目	豫算額	前年度ニ比シ増減 △印減	備考
俸給及諸給	四九七、三〇〇・〇〇円	六二、三〇〇・〇〇円	
事業費	二七四、〇〇〇・〇〇	二三、〇〇〇・〇〇	
雑品及消耗品費	一一四、二〇〇・〇〇	一四、八〇〇・〇〇	
電氣費	一一、九〇〇・〇〇	四、七〇〇・〇〇	電力、電話、電燈
燃料費	三、八〇〇・〇〇	一、二〇〇・〇〇	蒸氣及煖房用石炭費
瓦斯水道費	六、九〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	
印刷費	一二、三〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	研究報告書刊行費
通信運搬費	二、七〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	
會議費	三、八〇〇・〇〇	六〇〇・〇〇	研究員會及報告會等
特許費	二六、八〇〇・〇〇	六、〇〇〇・〇〇	内外國特許料及出願費
留學費			
器具機械費	四八、五〇〇・〇〇	一三、六〇〇・〇〇	
圖書製本費	四一、一〇〇・〇〇	八、四〇〇・〇〇	
雑費	一、〇〇〇・〇〇	一、五〇〇・〇〇	
建築費	一、〇〇〇・〇〇		
豫備費	二〇、〇〇〇・〇〇		
合計	八四〇、六〇〇・〇〇	八一、七五〇・〇〇	

第十八回（昭和九年度）決算報告

貸借對照表（昭和拾年三月三十一日）

○資産

一、拂込未濟資金		一六四、三〇〇・〇〇圓
一、銀行預金		三三、三九二・五四
一、郵便振替貯金		一、四三七・四六
一、現金		五、〇〇〇・〇〇
一、有價證券（額面一、一四一、一〇〇・〇〇）		一、一三九、八六〇・〇〇
一、地所	五三〇、七一〇・八八	
一、建物	二、一七七、四七七・一〇	
一、設備	三、八一八、四二〇・六一	
器具機械	二、一八四、七一七・一三	
什器	一八七、六七四・五〇	
圖書	四四五、二九六・九〇	
電氣設備	三八一、一一三・二一	
瓦斯水道設備	三〇二、九二三・七〇	圓
煖房設備	二五二、五一四・〇八	
構內設備	六四、一八一・〇八	
一、貯藏品	四五、六六三・三四	
一、假拂金	一七、八八七・五四	
一、未收入金	一四七、五一一・〇〇	
一、未收入寶掛金	一八六、〇五三・〇七	
一、製作品及材料	三五一、九六七・四九	
合計	八、六一九、六八一・〇三	

○負債

一、資金		六、三六八、四〇七・七九
一、預り金		一六、五〇〇・〇〇
一、固定資產減價引當		二、一八六、五〇一・一七
一、別口引當金		二、二四〇・〇〇
一、假受金		五、二〇〇・〇〇
一、諸準備金		四〇、八三一・〇七
合計		八、六一九、六八一・〇三

事業勘定書（自昭和九年四月一日至昭和十年三月三十一日）

○收入

一、利息及配當金		一三五、七六五・七三 円
一、補助金		二五〇、〇〇〇・〇〇
一、貸地貸家料		三、五七三・五四
一、研究費收入		一五八、〇一三・九四
一、特許發明實施許諾料		六一、〇〇〇・〇〇
一、特許發明實施許諾報酬等		四六、二二〇・〇五
一、有價證券賣買償還差益		五、二五四・五六
一、雜收入		二一、五〇二・九〇
小計		六八一、三三〇・七二
一、作業收益繰入		一五八、四四九・九二
計		八三九、七八〇・六四

○支出

一、事務費		五八、七三三・三三 円
俸給及諸給		三〇、九六〇・〇〇
業務費		二七、七七三・三三
一、研究費		七四四、三六七・〇八
俸給及諸給		四六八、三二〇・五〇
事業費		二七六、〇四六・五八
一、支拂利息		一九、八一九・六八
小計		八二二、九二〇・〇九
一、當年度剩餘金		一六、八六〇・五五
計		八三九、七八〇・六四

参考の爲め左に創立以來の事業費の收支決算額を略記する。

年度	收入	支出	年度	收入	支出
大正六年	五三、三六四・四五円	二、七五一・八九円	昭和二年	一、一八〇、六六〇・一九	一、〇四五、六五五・二八
七年	一三六、二四四・〇四	六三、三五〇・〇一	三年	六五九、五四一・三三	六三一、三七〇・七六
八年	二一〇、六八〇・九五	一〇九、九九一・七三	四年	八五五、一六四・三五	六八九、八二九・九二
九年	二七五、八三八・〇五	一六三、四五二・三六	五年	八一七、二四九・九八	七一〇、九七一・二〇
十年	三〇五、九三〇・五二	二四七、九四〇・五〇	六年	五九六、八六六・一二	六五三、四一三・五九
十一年	二七一、一三三・五三	三一九、四一五・七〇	七年	六五一、〇七二・六一	六四六、九三七・二二
十二年	九四二、八七五・七一	九〇〇、五〇七・〇二	八年	六六九、〇二〇・一八	六八四、二四四・五七
十三年	八四四、九四五・二三	八五五、六一九・六八	九年	八四二、八九八・二六	八二八、五七〇・〇五
十四年	九七、二二二・四三	九八、五六〇・〇七		八二九、七八〇・六四	八三二、九一〇・〇九

九特許權

當所の所有してゐる内外國の特許權は別冊に記載せる如く昭和十年三月三十一日迄に内國四三一件、外國一一八件、實用新案特許五七件、登録商標五九件であつて、其内已に實施せられて居るのも可成りあるが、多くは未だ實施されずにある。適當の條件で是等の特許が社會に大に利用せられんことを望むものである。

役員名簿（昭和十年六月八日現在）

總裁　伏見宮博恭王殿下

顧問　理學博士　櫻井錠二　同　鹽原又策

理事　理學博士　原邦造　男爵　森村市左衛門

同　工學博士　本多光太郎　農學博士　鈴木梅太郎

同　大橋新太郎　監事　男爵　岩崎小彌太

同　工學博士　子爵　大河内正敏　久原房之助

同　理學博士　片山正夫　古河虎之助

同　商工次官　吉野信次　男爵　三井高公

同　内藤久寛　評議員　男爵　岩崎小彌太

同　東大總長　醫學博士　長與又郎　岩井勝次郎

同　理學博士　長岡半太郎　市來乙彦

同　工學博士　牧田環　第一銀行頭取　石井健吾

同　青木菊雄　原富太郎

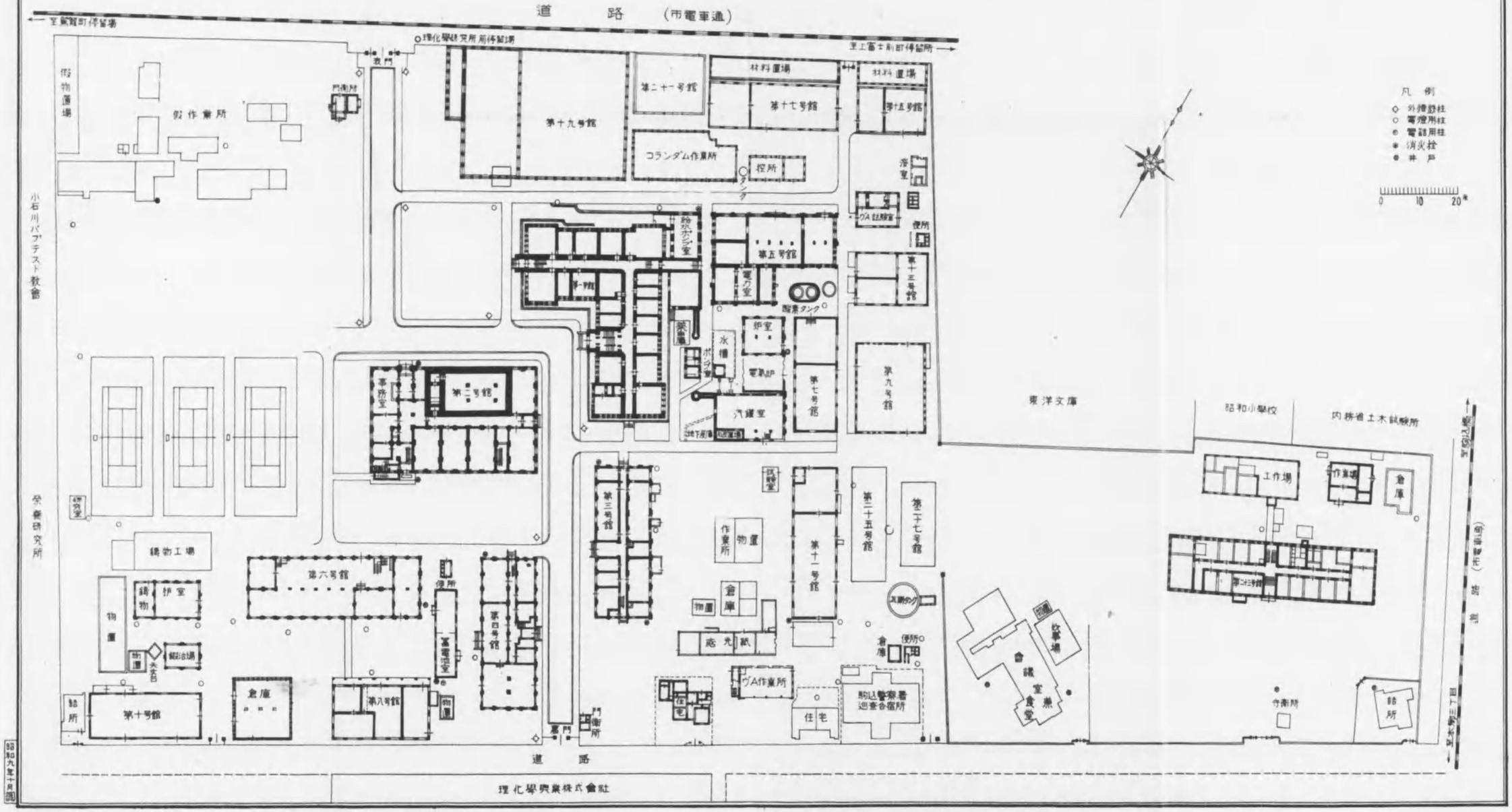
評議員　原　邦　造
同　濱口儀兵衛
同　濱口吉右衛門
評議員　日本勸業銀行總裁　法學博士　馬場鍈一
同　堀越角次郎
同　工學博士　本多光太郎
同　大橋新太郎
同　大川平三郎
同　工學博士　子爵　大河內正敏
同　法學博士　岡　實
同　川崎八右衛門
同　日本郵船會社　各務鎌吉
同　勝田銀次郎
同　貝島合名會社
同　理學博士　片山正夫

評議員　商工次官　吉野信次
同　田中榮八郎
同　田中平八
同　高峰保全株式會社
同　東大工學部長　工學博士　田中芳雄
同　大日本人造肥料株式會社　根津嘉一郎
同　內藤久寬
同　中村房次郎
同　東大總長　醫學博士　長與又郎
同　理學博士　長岡半太郎
同　植村澄三郎
同　內田信也
同　久原房之助
同　山下龜三郎

評議員　侯爵　前田利爲
同　松本健次郎
同　松方幸次郎
同　工學博士　牧田環
同　日本銀行總裁　深井英五
評議員　藤原銀次郎
同　藤山雷太
同　藤井榮三郎
同　橫濱正金銀行頭取　兒玉謙次
同　男爵　古河虎之助
同　青木菊雄
同　文部省專門學務局長　赤間信義
同　商工省工務局長　岸　信介
同　日本興業銀行總裁　結城豐太郎

評議員　男爵　三井高公
同　三輪善兵衛
同　文部次官　三邊長治
同　南滿洲鐵道株式會社　鹽原又策
同　島德藏
同　東大理學部長　理學博士　柴田桂太
同　株式會社十五銀行　森下博
同　男爵　森村市左衛門
同　鈴木岩治郎
同　農學博士　鈴木梅太郎

財團法人
理化學研究所建物配置圖
縮尺九百八十分之一



昭和十年六月二十五日印刷
昭和十年六月三十日發行

【非賣品】

財團法人 理化學研究所
（電話、大塚（86）三三一二一六三一二四 三三一二一六三一二五 三三一二一六三一二六）

代表者 大河內正敏
東京市本郷區駒込上富士前町三十一番地

印刷者 野島新之丞
東京市小石川區音羽町八丁目十一番地

印刷所 野島好文堂
東京市小石川區音羽町八丁目十一番地

終